令和元年度 月刊 ゼッ 校長通信４号

（生徒・保護者版） R1.7.25（７月号）

俊英NOW

●俊輝祭

７月６日（土）～７日（日）俊輝祭が開催されました。一般公開期間中、1200名を超える来校者を迎え、昨年にも増して盛況のうちに無事終了しました。

俊輝祭大賞は、ダンス部が奪還しました。その他の各賞は、以下の通りです。

優秀賞　３年２組：Cafeteria　＆　１年５組：地獄・極楽めぐり

特別賞　１年２組：総合喫茶　＆　軽音部

●夏の高校野球

７月11日、諏訪湖スタジアムでの対上田千曲高校戦は、初回の１点を守り抜き、４年ぶりの１回戦突破となりました。７月13日、２回戦対岡谷南戦は、初回の１点を守り切れず、残念ながら１：６で敗れました。

終業式の話

最後の晩餐（ばんさん）（最後の夜ごはん）

十字架で処刑される前日の夜、イエスは12人の弟子たちと夕食を取りました。そのとき突然、イエスが「あなたがたに言っておくが、あなた方のうちの一人が私を裏切ろうとしている。」と言います。弟子たちはびっくりして次々に「先生、まさか私ではないでしょう。」と言い出しました。実は、この時すでにユダという弟子がイエスのことを密告して銀貨30

カスターニョ作（1447 年頃）聖ポローニア修道院食堂

ギルランダイオ作（1480 年）オニサンティ聖堂僧院食堂

枚をもらっていたのでした。そのユダも「先生、まさか私ではないでしょう。」と言うとイエスは「いや、あなただ。」と答えます・・・・これが有名な「最後の晩餐」です。

なかなかにドラマティックなお話しであり、「最後の晩餐」の場面は、修道院の食堂の壁画などとして数多く描かれました。２つほどルネサンス期の作品をあげてみますが、一見して「最後の晩餐」の絵画には一つの形式があったことが分かります。それは、長テーブルに登場人物を並べ、裏切り者のユダを一人だけテーブルの反対側に座らせるというものです。大変分かりやすい図像なのですが、絵はただの説明図になってしまい、衝撃のドラマが台なしです。

有名なレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は、この形式を使いませんでした。ユダも集団の中に入れて、「あなた方のうちの一人が私を裏切ろうとしている。」とイエスが言った衝撃の瞬間をリアルに映像化しました。動揺が十二弟子の中に広がっていきます。さまざまな人間模様が描かれる中、最も焦（あせ）ったであろうユダは、イエスを密告して得た銀貨３０枚入りの袋を握り締め、怯（おび）えた視線でイエスを見上げています。

レオナルド・ダ・ヴィンチは天才とされますが、単に絵が「上手かった」ということではありません。はじめに紹介した２つの作品と比べても、絵の「上手さ」にそれほどの差はないのです。レオナルドが天才であったわけは、「最後の晩餐」の物語が表現すべき本質を深く理解し、そのために既存の形式を捨てて新たな形式を創造した点にあります。それは、作品の成り立たせている根本の部分における発想の転換です。レオナルドの「最後の晩餐」は、天才が時代の水準を越える端的な例だと言えましょう。もちろん、私たちはレオナルド・ダ・ヴィンチに及ぶべくもありませんが、さまざまな場面で、発想の転換を意識することは学ぶべきではないでしょうか。終業式に当たり、皆さんの柔軟な発想に期待して挨拶とします。

レオナルド・ダ・ヴィンチ作（1497 年）聖マリア・デレ・グラツィエ修道院食堂（ミラノ）